

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	アプリ児童デイサービス川崎諏訪2号館		
○保護者評価実施期間	2024年 12月 8日		～ 2025年 1月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30名	(回答者数) 25名
○従業者評価実施期間	2024年 12月 10日		～ 2024年年 12月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数) 10名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 1月 13日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・お子様が主体的に活動する療育プログラムをご提供しています	・アプリ2号館に集まるお子様全員の「秘密基地～自主運営」というコンセプトの下、プログラムの企画、計画、実行をお子様主体ですすめられるプログラムの設計となっています。ルールもお子様話し合っ決めて実践しており、お子様ご自身の「体験・経験」「思考過程」を育む自立支援を実践しています	・ご利用者様であるお子様のご希望、障害特性、暮らし、またご家族様のご希望、心情について、正しく理解し、ご本人様、ご家族様にフィットした療育サービスをご提供するための知識、情報のより多くの学びを継続します。正しい知識、多くの情報を持つことにより、スタッフが健康で元気で、より良い働き方を推進し、お子様との時間に最高のパフォーマンスで臨めるように取り組みます
2	・スタッフ一人一人が自由な着想でスピード感を持って、プログラムの作成、実施、サービスのご提供を行うことが出来ます	・「OODALOOP」の行動様式を用いて、よく観察を行い、企画、まずは実施、検証、着想からスピード感を持って、サービスのご提供を行うことが出来、スタッフ一人一人が自由に行動できる仕組み、チームの構築を行っています	・「OODALOOP」で実践した内容について、PDCAサイクルにて計画、実行、観察・検証を行い、さらに発展的に品質の高いプログラムの作成、サービスのご提供を目指す仕組みを構築、実践してまいります
3	・療育プログラム、サービス提供について、チームアプローチで行っています	・日々全スタッフによるモニタリング、記録を実施 ・療育チームで定期的にMTGを行い、情報共有、プログラムの作成を行っています ・同性介助を徹底し、情報共有、サービス提供について、話し合いの上進めています	・児発管より指示書、療育担当者より支援プログラムについての手順書を作成。プログラムの品質向上、より良いサービスのご提供の向上のため、必要な情報共有ツールを常にブラッシュアップし、より良い仕組みを構築します

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・施設の規準、品質向上、維持の標準化をすすめる仕組みの構築	・自由度が高いため、施設の基準、標準が曖昧なことがあり、一貫性のないご対応になる事があるので、施設としての基準を明確にし、プログラム、サービスのご提供の品質の向上、維持を図る仕組みの構築が必要です	・施設長を中心とした運営チームでMTGを毎週実施、店舗運営についての細かい課題を抽出し、社員MTG、スタッフMTGにて、規準、標準化について話し合いの下、設定、実施、検証しすすめます。施設の規準が明確であり、品質向上、維持の標準化された仕組みにより、営業時間中にお子様へ全スタッフが最高のパフォーマンスが自由に行えるように構築します
2			
3			